

ハートフルなんぶ

2024. 7月号 vol. 304

長野市立南部図書館
〒388-8006
長野市篠ノ井御幣川1201番地
TEL (026) 292-0143
FAX (026) 292-0559
<https://library.nagano-ngn.ed.jp/>

夏季学習室のご利用について

夏休み期間中は平日も2階大会議室を学習室として利用できる日があります。

南部図書館 7 月学習室開放日							南部図書館 8 月学習室開放日						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6					1	2	3
	休館日	休館日	休館日	休館日	休館日	休館日					開放	開放	開放
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10
休館日	休館日	休館日				開放	開放		休館日		開放	開放	開放
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17
開放	開放	休館日				開放	開放	開放	休館日	開放	開放	開放	開放
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24
開放		休館日				×	開放		休館日				開放
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	31
×		休館日	休館日				開放		休館日			休館日	開放
※ 学習室開放時間 午前10時～午後5時30分まで(時間厳守) ※ 蓋つきの飲み物以外の飲食はできません。(昼食スペースなし)							※ 学習室開放時間 午前10時～午後5時30分まで(時間厳守) ※ 蓋つきの飲み物以外の飲食はできません。(昼食スペースなし)						

新刊案内

- 『グリフィスの傷』 千早 茜／著 集英社 <Fチ>
- 『娘が巣立つ朝』 伊吹 有喜／著 文藝春秋 <Fイ>
- 『昏色の都』 諏訪 哲史／著 国書刊行会 <Fス>
- 『ひとつの祖国』 貫井 徳郎／著 朝日新聞出版 <Fヌ>
- 『告白撃』 住野 よる／著 KADOKAWA <Fス>
- 『愚か者の石』 河崎 秋子／著 小学館 <Fカ>
- 『最後の甲賀忍者』 土橋 章宏／著 角川春樹事務所 <Fト>
- 『わからない』 岸本 佐知子／著 白水社 <914.6キ>
- 『失踪願望。続』 椎名 誠／著 集英社 <915.6シ2>
- 『あなたの代わりに読みました』 斎藤 美奈子／著 朝日新聞出版 <019サ>
- 『日下を、なぜクサクと読むのか』 筒井 功／著 河出書房新社 <291.01ツ>
- 『笑って健康と幸せをつかむ24の方法』 鎌田 実／著 婦人之友社 <498カ>
- 『勇氣論』 内田 樹／著 光文社 <158ウ>
- 『ナチスと大富豪』 ダーフィット・デ・ヨング／著 河出書房新社 <234ヨ>
- 『謎の症状』 若林 理砂／著 ミシマ社 <490ワ>

『成功者K』 羽田 圭介／著 河出書房新社 <Fハ>

『小説 8050』 林 真理子／著 新潮社 <Fハ>

『彼女は頭が悪いから』 姫野 カオルコ／著 文藝春秋 <Fヒ>

『満願』 米澤 穂信／著 新潮社 <Fヨ>

『書店主フィクラーのものがたり』 ガブリエル・ゼヴィン／著 早川書房 <933セ>

『読書の森で寝転んで』 葉室 麟／著 文藝春秋 <B914.6ハ>

『ワタクシ、直木賞のオタクです。』 川口 則弘／著 バジリコ <910.26カ>

『芥川賞ぜんぶ読む』 菊池 良／著 宝島社 <910.26キ>

『直木賞をとれなかった名作たち』 小谷野 敦／著 筑摩書房 <910.26コ>

『芥川賞の偏差値』 小谷野 敦／著 二見書房 <910.26コ>

7月のテーマ 「文学賞」



ESSAY

文学賞

寄稿：とど

作家と編集者が、平静を保ちながらも電話を気にしている。あるいは緊張を紛らわせようと、酒場で仲間と歓談して待つ。文学賞が決まるまで過ごす時間を「待ち会」というそうだ。今月半ばには芥川賞・直木賞の選考会が行われるから、さまざまな待ち会風景がニュースになることだろう。

文学賞といっても、いったいどのくらいの数と種類があるのかな。なんとそれに関する事典が存在していて、南部図書館でも手に取ることができた。その最新版「最新文学賞事典 2019-2023」によると、この間に国内で実施された文学関係 439 賞について把握できる。受賞者に至っては 5914 人に上るといふ。長野県ゆかりのものでは「信州文学賞」、「島木赤彦文学賞」、「小諸・藤村文学賞」、「ふう太の杜常田富士男文学賞」、「うえだ七夕文学賞」など。後の 2 賞は図書館にパンフレットが置いてある(6/15 現在)。

事典で各賞の趣旨や選考基準を見ていくうちに、ふと父の紀行文が頭に浮かんだ。母を伴い 80 代半ばまで車で全国を旅した記憶を自ら冊子に作ったのが 3 年前。体裁は自由すぎて読みづらいが、ルビや引用、参考資料はちゃんと記している。観光名所は登場しないが、(私の記憶の)教科書で習わないこと満載で新鮮な驚きがある。159 項目に渡り、地理や歴史が時空をあちこち飛んで歩くようで面白い。小笠原諸島、壱岐・対馬、波照間島にもスポットを当てていて、「ここ行ってみたい!」と思わせる。

改めて読むとこれ、けっこうイケてるのでは?ダメもとで応募してみようかな?「奥の細道文学賞」、「わたしの旅ブックス新人賞」、「日本自費出版文化賞」あたりはどうかしら? いやいや、まさかとは思うが、もしかして、万が一、受賞決定の電話が来たら 90 歳の父の心臓が止まってしまうかも? ということで、まずは訪ねて行って感想を伝え、副賞として好きなお酒を贈呈することにしましょう。

参考文献:『最新文学賞事典 2019-2023』 日外アソシエーツ／編、日外アソシエーツ

<R910.26サ>



南部図書館 開館カレンダー

開館時間：午前 10 時～午後 6 時

■ は休館日です

2024年7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2024年8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31